

29. 《江戸時代の歴史人口が語るもの》

17世紀になると、内乱が鎮まっていき、水運の便も期待できる低平地での築城が流行り、あわせてインフラ整備（治水事業、運河事業、水道事業、街道整備）がなされます。それは同時に低平地の開拓でもありました。

とりわけ関東は、インフラ整備（注1）が集中的に行われ、南関東の人口は激増して1700年までに畿内人口を追い越します。参勤交代の制度により、江戸が政治経済の中枢に変貌していったこともあるでしょう。

18世紀になると、人口増加は緩やかになり、関東では中ごろから人口減少に転じます。

これは、新しい治水方式によって新田開発（注2）したにもかかわらず、幾度も天変地異（注3）に襲われたことが原因だと考えます。なぜだか、近畿は、地域を大改造（注4）したにもかかわらず、人口が停滞したままでした。

19世紀になると、関東、近畿とは異なり、着実に人口を増加させた地域が出てきます。なかでも西日本の山陽・四国・北九州・南九州は、藩政改革や外国交易などで成長したことが伺え、やがて薩長土肥の幕末の雄藩が登場してきます。

一方で、世界に目を転じると、西洋では、“17世紀の危機”を乗り越え、イギリスを筆頭に大幅な人口増加に転じています。

注 1 : 1594~1654 年 : 利根川東遷

1629 年 : 荒川の瀬替え (荒川の西遷)、鬼怒川付け替え

注 2 : 1728 年 : 見沼代干拓 (紀州流治水)

注 3 : 1707 年 : 宝永大地震、富士山宝永噴火

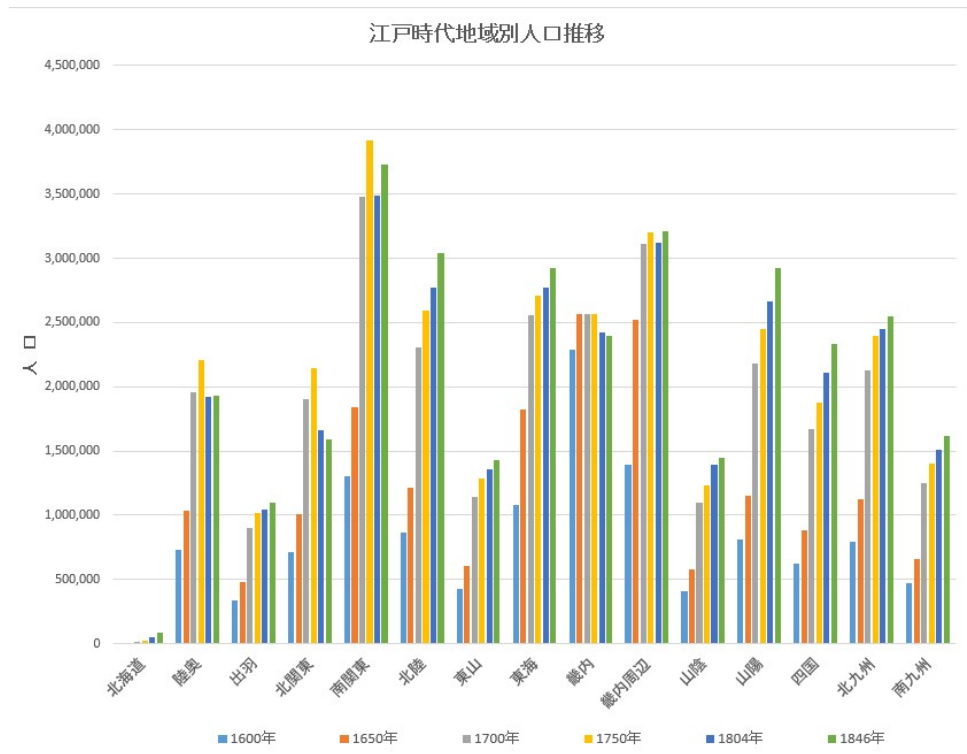
1742 年 : 寛保の水害

1783 年 : 浅間山天明噴火

注 4 : 1704 年 : 大和川付け替え

写真は、①江戸時代の地域別推定人口の変遷 (鬼頭宏による江戸時代国別推定人口を地域別にまとめたデータ (Wikipedia 掲載) を細見が図化)、②主要各国の人口増加率推移 (McEvedy & Jones (1978) のデータ (Wikipedia 掲載) を細見が分析図化 : このため、日本の人口増加率は、鬼頭宏による推定人口による増加率と齟齬があります。)

①



②

